



大分県議会議員 2021年 秋号  
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

# 原田たかし 会報



教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、  
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と  
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

## 2021年大分県議会第3回定例会行われる

広瀬知事「医療提供体制の維持にできる限りの対策、広域多岐にわたる社会経済支援策を用意」

9月8日(水)から28日(火)にかけて2021年第3回定例会が行われました。

今回、最低賃金の引き上げに対応する中小企業への支援などを盛り込んだ51億3,159万円の一般会計補正予算案など計28議案が上程されました。さらに14日(火)には、時短要請を2週間延長するための協力金23億円の補正案が追加上程されました。

その他、大分空港と大分市を結ぶ海上交通となるホーバークラフト3隻の取得（予定額41億6,486万円）、公衆浴場の混浴制限年齢を6歳ま

で引き下げる公衆浴場法施行条例の一部改正、佐伯市にある大分県マリンカルチャーセンターの廃止などが上程されました。

広瀬勝貞知事は提案理由説明で、新型コロナウイルス感染症の第5波に触れ、「医療提供体制の維持にできる限りの対策に取り組む」と述べるとともに、深刻な打撃を受けた社会・経済活動の再生に向け、「広域多岐にわたる支援策を用意しており、引き続き目詰まりなく迅速・着実に執行していく」と説明しました。

最終日に全て原案通り可決されました。

## 教育や政治・行政の最大の目的は平和な社会の実現

### ～終戦記念日に寄せて～

私は1959（昭和34）年生まれですから、戦争を実体験している訳ではありません。「戦争＝死」と初めて感じたのは、子どもの頃、友だちの家に遊びに行ったときのことです。仏間に軍服を着た方々の遺影が並んでいるを見て、「この家にも戦死された方がいるのだ」と思いました。中には海軍の水兵のセーラー服を着た若い方の遺影もありました。

私の父も招集を受けましたが、大分市にあった大分海軍航空隊で軍用機の整備兵として従軍していたと聞いています。大分市が大規模な空襲を受けた後は、広島島の呉市の基地に転属しそこで終戦を迎えたようです。

仕事内容についてはあまり話しませんでした。自分が整備した軍用機で出撃した隊員が戻ってこなかったことを寂しそうに話したことがありました。

私は議員になる前、小学校教諭として務めていましたが、実際に経験したことのない戦争を子どもたちどのように伝え、そこから平和の大切さをどのように教えていくのかを職場の仲間とともに悩みながら取り組んでいました。その中で、戦争や原爆、当時の社会情勢などを調べれば調べるほど、戦争の悲惨さや悲し

みを学び、平和な社会への歩みを止めてはいけなと思いました。

議員になった今でもその思いは変わりません。教育や政治・行政の最大の目的は、平和な社会の実現に他ならないと考えて

いるからです。また、国際安全保障論の有名な言葉に「戦争とは政治の失敗のことである」という定義があります。私は全くその通りだと考えていますし、逆に言えば戦争を止めることも政治の役割だと考えています。

76年目の終戦記念日にあたり、戦没者の方々に衷心より御冥福をお祈りするとともに、今を生きる者として先の悲劇を繰り返さないために、平和を脅かす様々な問題に対し、これからも平和を求める市民の方々とともに向き合っていきたいと考えています。



今日新聞に掲載していただきました

### 折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。  
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

